

第26回東北クラブラグビー選手権大会 実施要項

1. 名称 第26回東北クラブラグビー選手権大会
2. 主催 関東ラグビーフットボール協会
3. 主管 青森県ラグビーフットボール協会
秋田県ラグビーフットボール協会
5. 日程 2009年10月24日(土) 代表者会議、青森市スポーツ広場ラグビー場テント内
10月24日(土) 1回戦(2試合)、青森市スポーツ広場ラグビー場
10月25日(日) 2回戦(2試合)、青森市スポーツ広場ラグビー場
※敗者チーム同士における練習ゲーム(希望成立の場合)
11月22日(日) 秋田八橋陸上競技場(秋田NB対釜石SW前座試合)

6. 参加資格

- (1) 2009年4月1日現在、各都道府県ラグビーフットボール協会に「チーム登録」されたクラブチーム。コンバインドチームの場合は、予選大会時からのコンバインドであること。
- (2) 昨年度の全ての公式大会で、棄権、不戦敗もしくは失格したチームの参加は認めない。
- (3) 過去に未登録の選手を偽って出場させたチームないし選手も同様とする。

7. 選手資格

- (1) 本大会の選手資格は、財団法人日本ラグビーフットボール協会「選手・役員規定」及び、その他の施行細則に抵触しない者とする他、以下の特則に服する。
- (2) 選手は満18歳以上の者とし、高等学校在学中(定時制を含む)の者の参加は認めない。
- (3) 2009年9月末日付までに、本大会へ出場する所属チームから日本協会へ「競技者個人登録」を完了した者に限る。なお、各チームの所属する地域協会でこれより早い期日を指定した場合には、その期日に従う。
- (4) 本年度の全国大会につながる都道府県大会ないし地域大会で、既に一つのチームから選手登録された者は、前項の登録期限に関わらず、移籍して他のチームから本大会へ選手登録することは出来ない。
- (5) クラブ大会と全国社会人大会及びその地区予選大会の双方へ出場するチームにあっては、出場選手はそれぞれ区分して選手登録されなければならない。同一選手が両方の大会へ出場することはできない。
- (6) 他のチームとの二重登録は認めない。
- (7) 財団法人スポーツ安全協会の「スポーツ安全保険」に加入していること。
- (8) その他、選手資格に疑義がある場合には、東北クラブ委員会に於いて裁定する。
- (9) 本年度も試行制度として、各県協会主催のクラブ選手権大会(予選)に参加したチームより補強選手の出場を認める。出場資格については、「競技に関する諸注意 2」を参照のこと。

8. 競技方法

- (1) 本大会は、各県代表チームによって行なう。代表チームの選出は各県協会主催の大会(予選)を経て、かつ各県協会の推薦を得て選出される。代表チームを選出できない場合には、東北クラブ委員会において選定する。
- (2) 大会は、東北6県各1枠のトーナメント勝ち抜き方式による。
- (3) 組み合わせは、東北クラブ委員会の定める方式で決する。

9. 競技規則

- (1) 2009年度(財)日本ラグビーフットボール協会制定の「競技規則」による。
- (2) 試合時間は40分ハーフとする。
- (3) 規定時間内に勝敗が決まらない場合には、以下の基準で、次回出場権を決する。
 - ①トライ数の多いチーム。
 - ②トライ数が同じ場合には、トライ後のゴール数の多いチーム。
 - ③上記の方法で決することが出来ない場合には抽選で決める。
- (4) ルール改正で試合中ノンコンテストスクラムが発生した場合でも得点並びに次回出場権も確保される事となりました。
- (5) 決勝戦で同点の場合には、両チーム優勝とする。但し、翌年のシードを決める場合には、上記の基準を適用する。

10. 罰則

- (1) 参加資格を偽った場合、選手資格のない者が出場した場合には、その時点で失格とし本年度および次年度の全ての公式大会への出場を認めない。不戦敗ないし棄権したチームも同様とする。
- (2) 未登録の選手を偽って出場させた場合は、以後全ての公式大会から排除する。
- (3) いずれの場合も、事実発生の時の相手方チームを勝者とし、それ以前のものには触れない。
- (4) その他、スポーツマンシップに反する行為のあった場合にも前項に準ずる。
- (5) 参加チームは、その所属するチームの応援団の行為についても責任を負うものとする。
- (6) 本大会で生じた不規律に関しては、選手ないしチームに告知聴聞の機会を与えた上で、大会規律委員会に於いて処分を決定する。

10. 顕賞

優勝および準優勝チームを表彰する。優勝チームには、優勝杯、準優勝チームには賞状を授与する。

11. 帯同制度

- (1) レフリー育成のため、出場チームは公認レフリー又はレフリー希望者を帯同する様務めなければ為らない。
- (2) 出場チームは、有資格のメディカル・サポーターを帯同しなければならない。

東北クラブラグビー選手権大会・参加上の諸注意

東北クラブラグビー選手権大会は20年という一つの区切りを過ぎ、今年26年目を迎えました。覇権を争うクラブラグビーの地域大会としては、東日本クラブ選手権大会や日本クラブ選手権大会よりも歴史が古く日本国内でも先駆会的大会です。東日本クラブ選手権大会への一県一代表が認められた今日であっても、東北No.1の栄冠を手に入れることは東北ラグーマンの誇りでもあります。諸先輩方々が築き上げてきたこの大会を少しでも多くのラグーマンに感じて頂くために、試行制度として予選大会に出場した他のチームより補強選手の出場を認めることとしました。補強選手とはトップノースリーグに導入された指定強化選手とは趣旨を異にし、助っ人やコンバインドチームの編成ではなく、多くのラグーマンがこの大会へ出場でき覇権を争い、そしてその素晴らしさを伝えるための制度です。東北クラブラグビー選手権大会はただ単に覇権を争う大会ではなく、東北の社会人、大学、高校そしてスクールの見本となるようなプレーを始めそのスピリットの伝承大会です、この大会が常に全国に向けて発信する大会になるように参加チーム、そして選手皆様のご協力をお願いします。

競技に関する諸注意事項 ＝事前、試合当日、試合後の諸ルール＝

1. 選手登録の方法

- (1) この大会の選手登録人数は、2009年9月30日までに日本協会へ競技者個人登録を完了した者の中から人数制限なく登録できる。
- (2) 大会期間中に登録した選手を変更、追加、入替えすることは出来ない。申込時点で登録した選手のみに出場資格がある。
- (3) 個人登録番号は、競技者個人登録の手続きをする際に各チームが付番した番号である。協会から通知されるものではないので十分注意すること。
- (4) 試合ごとの登録選手は22名以内とする。試合会場到着時に大会本部受付へメンバー表を提出する。
- (5) 補強選手の登録は最大18名までとする。但し過半数を超える補強選手の選手登録は認めない。
- (6) 大会規定に認められたコンバインドチームである場合は、上記の限りではない。

2. 補強選手制度について(試行制度)

- (1) 補強選手は、県クラブ選手権大会(予選大会)に出場したチームから補強することが可能である。
- (2) 補強選手は、出場チームとユニフォームを始め、パンツ、ストッキングが統一されていなければ試合に出場することはできない。
- (3) 補強選手といえども、助っ人ではないので出場チームと同一行動を取らなければならない。

2. 選手の交替、入替え(競技規則第3条等参照)

- (1) 試合ごとの登録選手は22名以内とする。選手登録後の補強選手はチームの一員となるので登録人数の制限はない。
- (2) 選手の交替、入替えは、「競技規則」の定めるところによる。(以下略説)
- (3) チームが19～22名の選手を指名する場合には、少なくとも5人はフロントローとしてプレーできる選手でなくてはならない。
- (4) チームが16～18名の選手を指名する場合には、少なくとも4人はフロントローとしてプレーできる者でなくてはならない。
- (5) 試合中、十分適切にフロントローとして訓練を受けた選手がいなくなった場合には、安全対策の見地からノンコンテストスクラム(模擬スクラム)により試合を続行する。
- (6) 選手の交替(医師または医務心得者からプレー続行不可と勧告のあった場合)は、7名まで。
- (7) 選手の入替えは、フロントローは2名まで、その他は5名まで。
- (8) 入替わった選手は、その試合に再出場することは出来ない。但し、以下の場合を除く。
 - ①出血した選手の一時的交替の場合。
 - ②フロントローとしてスクラムが組める選手が他になくなった場合。
- (9) 出血のための一時的交替は15分以内とし、それを越えた場合には正式交替として取り扱う。
- (10) コンタクトレンズ装用にかかる不具合に関しては、一時交代不可となったのでご注意ください。
- (11) 交替、入替え、出血の手当てをする間の一時的交替は、必ずチームの交替指示者から第三タッチジャッジに

- 告げてレフリーの許可を得て入退出すること。交替指示者以外の者が交替を申し出ても受け付けない。
- (12) レフリーの許可なく入退出した場合には、「競技規則」の不行跡として罰せられる。

3. シンビン、退場(競技規則第10条等参照)

- (1) シンビン(一時的退出)となったプレイヤーは、ハーフウェイライン付近の所定の場所に位置しなければならない。レフリーが許可するまで、フィールド・オブ・プレーに入ってはならない。その間、チームコーチ等と接触してはならない。
- (2) シンビンの時間は 10 分間とし、ハーフタイムの時間は含まれない。同一シーズンの公式試合において、累積3回目のシンビンが適用された選手は、そのまま退場となり、ゲームに再出場することは出来ない。また、次の1試合は出場停止となる。(各地域大会、国体その他の公式試合から累積適用されるので注意すること)
- (3) フロントローの一人がシンビンとなった場合、レフリーは残り 14 名の選手の中にスクラムが安全に組めるように訓練を受けた選手がいるかどうかを判断するため、当該チームのキャプテンと協議する。誰もいない場合には 14 名の中から1名を退出させ、リザーブのフロントロー選手1名を一時的交替で入れることが出来る。この一時的交替はシンビン後すぐでも、他の選手がフロントローとしてプレーしてみた後でも、いずれでもよい。
- (4) 入替えで退出した選手であっても、フロントローとしてスクラムが組める選手が他にいなかった場合には、一時的交替でゲームに再出場することが出来る。
- (5) シンビンで一時的退出していた選手が戻ってきた時点で、一時的交替のフロントロー選手とその交替した選手は、元へ戻る。(この一時的交替は、入替えに数えない)
- (6) 累積シンビン退場以外の事由(不行跡等)で退場となった選手は、「退場を命じられたプレイヤーの措置」に基づいて、大会規律委員会で処分を決する。

4. 90分前受付

- (1) 試合当日、各チームの責任者はキックオフ120分前～90分前までに大会本部でチーム受付を済ませること。
- (2) 大会本部より当日の必要な伝達を行うので、代理の者ではなく、必ずチーム責任者が出向くこと。
- (3) 受付時に、出場選手全員(リザーブ選手含む)のドレスチェックの時間を大会本部と協議の上決める。時間は、60分前「コール」の前後に設定すること。(諸事情によりチームの希望時間に添えない場合がある)
- (4) 90分前受付～60分前コールの間に、当日の「メンバー／スタッフ表」を提出する。但し、提出時点で到着していないメンバーを記入することは出来ない。

5. 70分前プレマッチミーティング(集合)

- (1) キックオフ70分前に「プレマッチミーティング」を行う。当日出場できる選手・スタッフが確定される。この時点で到着していない選手・スタッフは、大会へ出場できない。
- (2) 70分前「プレマッチミーティング」の時点で、チーム責任者は以下の人員を大会本部の所定の場所へ集合させること。①主将、②交替指示者、③メディカル・サポーター、④記録係、⑤水係(3名以内)、⑥チーム・ドクター(いるチームのみ)
- (3) 試合中の負傷者への対応及び処置、負傷交替についての最終判断は、マッチ・ドクターに属する。
- (4) 各チームは、有資格のメディカル・サポーター(認定証持参のこと)をかみならず帯同しなければならない。リザーブ選手、スタッフとの兼任を禁ずる。
- (5) メディカル・サポーターの他に水係(3名以内)がグラウンドに入ることができる。但し、任務は水入れのみとし、無線機等の使用はできない。
- (6) メディカル・サポーター、水係は、所定のビブスを着用すること。自チームの応援をしたり、指示の声を出したりしないこと。コーチが兼任することを禁ずる。コーチとは登録上のコーチならびにコーチング・スタッフ全員を指し、彼らの指示を伝達する者も含まれる。
- (7) 各チームの記録係は、記録席で公式試合記録用紙を記入すること。
- (8) 試合球は大会本部で用意する。試合は、原則としてスリーボール制で実施する。
- (9) レフリー育成のため、各チームは公認レフリーまたはレフリー希望者を帯同する様務めなければならない。
- (10) レフリーとタッチジャッジの割付は、大会実行委員会で指定する。
- (11) 70分前「プレマッチミーティング」に15人揃わないチームは不戦敗とする。

6. 競技時、ハーフタイム時の諸注意

- (1) 試合中チーム関係者は所定の場所に着席し、うろろしないこと。ゲームの進行とともにタッチサイドをうろろ移動して応援したり、指示の声を出したりしない。ラグビーはキャプテンシーのスポーツである。
- (2) リザーブ選手は上着、トラックスーツを着用するなど、必ず競技中の選手と見分けがつく服装をすること。
- (3) 出場選手以外のメンバーは、グラウンドに出て練習等に参加しないこと。

- (4) グランド内にチームベンチが設けられた場合、ベンチに入れるのは最大16名までとする。＝リザーブ選手7、監督・コーチ1、メディカル・サポーター1、水係3、競技(交替指示者含む)3、チームドクター1。
- (5) 本大会のハーフタイムは、決勝戦以外は、5分以内とする。ハーフタイム時の選手(リザーブ選手を含む)の休息地点は、5メートル・ラインより内側である。水、その他の持ち込みは、世話係(各チーム3名以内―腕章着用)が5メートル・ラインより内側のプレイヤーの所に持って入ること。うがいした口の中の水やレモンかす、チリ紙等はグラウンドへ捨てない。そのための空のバケツを持って入ること。
- (6) ハーフタイムの時、フィールド・オブ・プレーに入る事の出来る監督ないしコーチは、1名のみとする。(競技規則第6条C2を準用。ルール委員会、レフリー委員会との申し合わせ事項による)
- (7) ホームチームの世話係は、レフリーへ水、その他を持って行くこと。
- (8) グランドに水を持ち込む場合には安全な容器を用いること。(ビン類不可)
- (9) 芝生グラウンドにつき、必ずキックテーを用いること。キックテーは試合前にボール係に預けておくこと。
- (10) キックオフ前、ノーサイド後の整列は行わない。ノーサイド後は速やかにグラウンドを空けること。ラグビーはノーサイドとともに、サイドの隔てがなくなるスポーツである。

7. ラグビー・マナー

- (1) 試合会場への往復、交歓会(アフタマッチ・ファンクション)、代表者会議などにはコート&タイの正装で臨むこと。試合会場へは正装とし、会場において着替えること。但し、チーム全体で統制が取れている(チームポロシャツ等)場合は、この限りでない。
- (2) アフタマッチ・ファンクションに際しては、出席者全員が必ず上着を着用し、コートやマフラー、帽子、手袋等を取り、身だしなみを整えて出席すること。但し、チーム全体で統制が取れている(チームポロシャツ等)場合は、この限りでない。
- (3) 会場への往復の際、ボール、やかん、空気入れ等は、ムキ出しで持ち運ばないこと。
- (4) 更衣は定められた場所で行い、また、指定場所外には裸体で出てはならない。更衣室(場所)の後始末は、たとえ自チームが汚したものでない場合でも清掃し、清潔保持に努めて頂きたい。
- (5) ゴミ(グラウンド内ばかりでなく更衣室のゴミも含む)は、必ず各自、各チームで持ち帰ること。
- (6) 会場内は、グラウンド、更衣室、交歓会会場、駐車場、その周辺区域を含めて全面禁煙とする。

8. 安全対策、脳しんとうの報告義務

- (1) 大会参加に当たっては、あらかじめ健康診断を受診する等、プレイヤーの健康管理に充分配慮すること。特に、過去に頭部外傷や脳しんとうを起こしたことがある者は、必ず脳波検査、CT等の検査を受診させること。
- (2) グラウンドで明らかな頭部打撲を認め、その受傷時に応答(意識状態)の異常、あるいは、身体活動の異常が認められるものは、すべて競技規則にいう「脳しんとう」に該当するものと考えて退場させる。試合中に脳しんとうで退場したプレイヤーが出た場合には、チーム責任者は所定の用紙によって報告の義務がある。
- (3) 脳しんとうによって退場した選手は、以後3週間は医師の診断書で認められた場合を除き、試合、練習には参加できない。
- (4) 日本協会の「競技者個人登録(＝登録者傷害見舞金制度)」、及びスポーツ安全協会の「スポーツ安全保険」の加入手続きに、漏れのないよう充分注意されたい。

プレイヤーの服装/ジャージの規定 (競技規則第4条、選手役員規定参照)

<1>服装の統一

- (1) 各チームは、ファーストジャージの他に、セカンドジャージ(いずれも背番号の欠番のないもの一式)を準備すること。
- (2) ジャージ、パンツ、ソックスは、チーム全員統一されていること。不統一の選手、その他服装規定に反した選手は出場できない。補強選手であっても出場チームと同一のものを着用すること。
- (3) パンツのスリットライン、ソックスの折り返しの不統一は認めない。チームマークのついたパンツを着用するチームは、全員が統一されていること。
- (4) スパイクは、固定式のスタッド(一体形成型ゴム底のもの)であれば、鋭い形状の部分や鋭く隆起している部分がない限り、イボ状またはブレードタイプのもの着用の着用を認める。取り外し式スタッドの場合には、ブレードタイプの着用は認めない。
- (5) アンダーシャツを着用する場合には、ジャージと同系色か、黒または紺色のものに限る。色は単色とし、柄および

マークなど(メーカーロゴを含む)のないものであること。

- (6) ジャージのソデより長いアンダーシャツは着用できない。
- (7) タイツタイプのスパッツは着用できない。
- (8) ジャージその他の用具に血液が付着した場合には、直に取り替えなければならない。

＜2＞ジャージのデザイン

- (1) ジャージには背番号を表示する。1～15番は先発メンバーとし、16～22番をリザーブメンバーが着用する。
- (2) フッカーのリザーブは16番、もう一方のフロントローのリザーブは17番とする。その他のリザーブは18番から22番とし、フォワードからバックスへと背番号を付けるものとする。
- (3) ジャージは、エリ付きのもので、ソデは最低肩からヒジまでの長さを有するものであること。胸にマークを付ける場合には、100平方cmを限度とし、1ヶ所のみとする。(選手役員規定・参照)
- (4) ジャージの素材は、衣類として使用できるものであれば可とする。ジャージは前立がある場合は、前立の長さを80～150mmとする。エリは縦型の場合、高さを35mm以上とする。
- (5) ジャージに胸マークを入れる場合には、全員が統一されていること。不統一なものや、取れたもの等一切認めない。また、破れやほころびは補修洗濯された清潔なものであること。
- (6) 背番号を縫い付けた場合には、四隅だけでなくしっかりとジャージに縫い付けて、試合中取れないようにすること。また、縫い付けとプリントの混在は認めない。
- (7) 広告の入ったジャージ、パンツ、トラックスーツ等を着用する場合には、チームから競技場に対して広告料を支払う義務が生ずるので、あらかじめ承認置き頂きたい。(広告の定義－選手役員規定参照)

＜3＞プレーヤーの着こなし

- (1) 参加選手は東北のラグーマンの代表としてふさわしい服装、身だしなみを心がける。
- (2) 選手は以下の着こなしを遵守すること。レフリーや競技役員から指摘される前に、各自、各チームで正すこと。
 - ①ソックスはきちんと上げる。試合中ずり落ちないようにテープ等できちんと止めること。
 - ②パンツの上に出たジャージは、常に注意してパンツの中に入れる。
 - ③ジャージのエリを内側へ折り込まない。ラグビーはエリのあるスポーツである。
 - ④ジャージのソデを極端にたくし上げたり、テープで止めたりしない。
- (3) ヘッドギア、ショルダーパットに色規制はないが、＜IRBマーク＞の付いたもの以外は着用できない。ドレスチェックは型番などではなく、＜IRBマーク＞の有無のみで判断する。
- (4) サポーター類を着用する場合にはパンツと同色の物を使用すること。但し、白色のアンダーパンツ、サポーター類は、いずれのパンツにも使用することが出来る。
- (5) 60分前「コール」の時点で、レフリー及び競技役員がドレス・チェック(服装、スタッド等の検査)を行う。選手は、レフリーと競技役員の指示に従うこと。
- (6) ドレスチェックで不許可となったものを競技区域で着用していた場合には、その時点で「競技規則」第4条7(c)により退場となる。
- (7) 服装規定に関して不明な点は事前に大会実行委員会まで問い合わせをする等、当日のドレス・チェックの際にトラブルが起きないように、事前の徹底、再確認を充分しておくこと。

メディカルサポーター／水係り

- (1) 各チームは、有資格のメディカル・サポーター(認定証を持参)を必ず帯同して用意すること。リザーブ選手、スタッフとの兼任を禁ずる。無線機を使用する場合には必ず周波数を大会本部に申告し、レフリーと混信が生じないように注意すること。
- (2) 試合前にレフリー、タッチジャッジ、マッチドクター等と十分な打ち合わせをし、負傷者発生の場合でゲームの中断を求める場合に備えてレフリー及び競技委員と「シグナル」の確認を行ない、適切な行動がとれること。
- (3) メディカル・サポーターの他に水係(3名以内)がグラウンドに入ることができる。但し、任務は水入れのみとし、無線機等の使用はできない。

- (4) メディカル・サポーター、水係は、自チームの応援をしたり、指示の声を出したりしてはならない。コーチが兼任することを禁ずる。コーチとは登録上のコーチならびにコーチングスタッフ全員を指し、彼らの指示を伝達する者も含まれる。これらの者の不行跡は、退場の対象となる。
- (5) メディカル・サポーター、水係は、所定のビブスを着用すること。

ホームチームの定義／ジャージが同系色の場合の措置

- (1) ホームチームの定義／ホームチームとは、当日の試合会場に地理的に近い方のチームを指す。同一地域にある場合には、対戦表の右側(下側)チームとする。
- (2) ホームチームの役割／ホームチームは、相手チームと連絡を取り合い、試合1週間まえまでに、レフリーに確認の連絡を入れること。連絡事項は、期日、キックオフ時間、場所の他に、両チームのジャージの色を必ず通知すること。
- (3) アフタマッチ・ファンクションでは、ホームチームが進行に責任を持つこと。
- (4) 交歓会費用は、別途指定額を試合当日に主管協会へ支払うこと。
- (5) ジャージが類似した場合／ジャージが同系色の場合には、以下の順序で着用するウエアーを決める。
 - ①ファーストジャージが類似した場合には、両チームともセカンドジャージ。
 - ②セカンドジャージが類似した場合には、ホームチームがセカンドジャージ、ビジターチームがファーストジャージ。
 - ③それでも類似した場合には、ホームチームがファーストジャージ、ビジターチームがセカンドジャージ。
 - ④それでも決まらない場合には、大会実行委員会が指定した方法で決める。
 - ⑤両チームで話し合ったジャージ色は、必ず大会本部の承認を得ること。

代表者会議

- 1. 期 日 10月24日(土) 11時00分より
- 2. 会 場 青森市スポーツ広場ラグビー場テント内
- 2. 出席者 各クラブの代表者1名出席の事
- 3. 議 題 ①大会参加上の注意
 ②競技場の注意
 ③ルール上の留意点
 ④大会スケジュールの確認

東北クラブラグビー選手権大会・選手登録上の諸注意

1. 登録制度のあらまし(競技者個人登録と、公式大会選手登録の違い)

日本協会では、平成4年度より各チームに所属する選手の「競技者個人登録」(通常「個人登録」と略称)制度を発足させた。この制度の下では、複数のチームに亘って選手が所属することは禁じられている。

クラブ大会に限らず、各種公式大会実施の際に誤解され混同されているのは「競技者個人登録」と「公式大会選手登録」という概念である。この2つは全く別のものである。

まず「競技者個人登録」とは、およそラグビーをやる上でラグビーの競技者であることを明示する手続きであり、その年度のあらゆるラグビー活動のベースとなる。所属チームから登録する。人数は無制限である。年度途中で追加、抹消ができる。

「公式大会選手登録」とは、競技者個人登録された者の中からある特定の公式大会(ラグビー協会が主催ないし主管する大会)ごとに出場する選手を確定する手続きであり、大会実施要項でそれぞれ登録できる人数が決められている。

2. ラグビー協会「競技者個人登録」=〈二重登録の排除〉

- ①競技者個人登録は、毎年4月に登録手続きが開始される。
- ②4月に競技者個人登録できるのは、一つのチームからだけである。複数のチームから、個人登録できない(二重登録の排除)。
- ③年度途中、何らかの事情(転勤等)で別のチームに所属することになった場合には、前チームの競技者個人登録を抹消し、後チームで新たに競技者個人登録する手続きが必要である(競技者個人登録の異動)。
- ④新規に競技者個人登録する場合には、本人に登録制度を充分理解させた上で登録手続きを行なうこと。特に、来日早々の外国人選手や新卒者(高校ないし大学)には、必ず本人の入会の意思を充分確認してから登録すること。会社や学校のチームと二重登録できない旨を充分熟知させた上で登録すること。
- ⑤本大会の競技者個人登録の最終期限は9月30日である。

3. 大会ごとの「公式大会選手登録」=〈一年度、一個人、一登録〉

- ①各チームで競技者個人登録された者の中から、大会ごとに「公式大会選手登録」を行なう。この際には二重登録の排除とともに、「一年度、一個人、一登録」の原則が適用される。公式大会へは、その年度中はどこか一つのチームからしか公式大会選手登録はできない。すなわち、本大会で選手登録されれば、2009年度の公式大会へは、他のいかなるチームからも選手登録できない。その逆もしかり。複数のチームから登録すると、「失格」となるので、充分注意すること。

②二重登録の起きやすい例

《例Ⅰ》AクラブとBクラブ(他県のクラブ・社会人チーム・教員チーム・高校や大学のOBチーム等々を含む)に入会している場合。

各種公式大会へは、その年度一つのチームからしか公式大会選手登録できない。複数のチームに入会している選手は、どのチームから登録するのか、必ず本人の意思を確認し、かつ相手チームと連絡を取って、平成19年度中は相手チームで登録が行なわれないよう手配した上で、自チームの登録手続きを行なうこと。特に、関東社会人リーグ戦(1~4部を含む)との二重登録が目立つので充分注意すること。大会実行委員会では、二重登録を指摘された選手について、社連等のチームに照会を行うので、当該選手に不利益が及ぶことのないよう各チームは登録作業を慎重に行うこと。本大会でいったん公式大会選手登録されると、2009年度中は、他のいかなるチームからも登録できないので充分注意すること。

《例2》転勤等で、年度途中で所属チームが変わった場合。

年度途中、何らかの事情で所属チームが変わった場合、後チームで競技者個人登録の異動手続きを行なうこと。しかし、前チームで既に公式大会選手登録されていれば、2009年度中は後チームで公式大会選手登録することはできない。競技者個人登録と異なり、公式大会選手登録には異動という概念はない。

《例3》学生の取り扱い。

大学チーム(大学体育会ラグビー部・大学クラブ・同好会を含む)に所属する学生は、本大会で公式大会選手登録できない。その他の学生は可能である。

③2009年3月に高等学校を卒業した者は本大会で公式大会選手登録できる。同様に、2009年3月に大学を卒業した者(2009年9月卒業見込みの者を含む)は、本大会で公式大会選手登録できる。但し、一旦クラブで登録すると、その者は以後、入社先の社会人チームないし入学先の大学チーム(体育会・学生クラブ含む)等々に入部しても公式大会選手登録はできない。各チームは、本人の意に反した登録を行なわないこと。安易な登録で、1年間公式試合に出場できなくなる恐れがあるので、十分注意すること。

④上記期限内であっても、既に本年度の全国大会(大学・社会人・クラブ等日本選手権大会へつながる全てのジャンルを含む)につながる各都道府県大会で他のクラブから公式大会選手登録された者は登録できない。(実施要項の6. 選手資格(4)参照)

《例》春季に各地の都道府県クラブ大会で<Aクラブ>から公式大会選手登録した選手は、本大会で<Bクラブ>から選手登録することはできない。

4. 社会人大会への出場資格

①2001年度からクラブチームにも社会人大会への出場資格が認められた。2003年度からのトップリーグの発足に伴い、社会人大会へ出場するチームの選手資格を略説する。

②社会人大会へは5月に定められた様式により、所属する地域協会から参加許可を得て参加できる。

③クラブは、社会人大会とクラブ大会の双方に出場することが出来る。但し、クラブの「チーム登録」は、それぞれ別個に分けて登録しなければならない。また、公式大会選手登録は、それぞれの大会ごとに区分しなければならない。同一選手が双方に出場することは出来ない。

④社会人大会への出場資格は、同大会の実施要項で当面以下の規制があるので、クラブチームの場合充分注意すること。

- ・ チームに所属している選手全員がクラブとの間で入会契約などの契約関係にあること。レンタル移籍は認められない。
- ・ 2009年度の個人登録期限は6月末までに登録が完了していること。
- ・ 外国籍の選手(特別永住権が認められた在日外国人を除く)が出場する場合には、日本協会が定める選手役員規定「大会要項準則」の「外国人選手出場規定」の規制を受ける。
- ・ 外国籍の選手で、ゲームに出場できる選手は2名まで。
- ・ その他、「大会要項準則」(平成15年7月15日改定施行)等を参照のこと。